

2019 年予算討論

公明党議員団を代表して、平成 31 年度北区一般会計予算案並びに四特別会計予算案について賛成の立場から討論します。

平成 31 年は平成最後の年であり 5 月には皇位継承が行われ、秋にはラグビーワールドカップが開催され、来年には東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が迫っています。日本の経済状況は、一部に不安要因を抱えながらも、企業業績の回復による税収が増加、雇用の改善が続き、緩やかな景気回復の持続が期待されるところです。

日本の社会保障の方向性は、1970 年の男性労働者の正規雇用・終身雇用と専業主婦を前提とした年金・医療・介護中心から 2025 年の年金・医療・介護の前提となる現役世代の雇用や子育て支援・更に低所得者・格差・住まいの問題も社会保障の大きな課題へと転換されました。給付は高齢世代が中心、負担は現役世代が中心という社会保障制度を見直し、現役世代を含めた全ての人々が受益を実感できる社会保障制度の構築へと転換されました。

団塊の世代が 75 歳以上になる 2025 年を念頭に進めてきた社会保障・税一体改革は 2019 年 10 月の消費税 10%を財源に低所得の高齢者を対象とした年金生活者支援給付金がスタートし、介護保険の低所得者に対する保険料軽減措置の拡充や幼児教育・保育の無償化も始まります。

しかし、今回の予算委員会でも論議されましたが、歴史的な転換点を迎え、喫緊の課題への対応と未来への中長期課題も同時に取り組む難しさもあります。「北区基本計画 2015」「北区まち・ひと・しごと創生総合戦略」を基本に据え、二つの最重要課題と三つの優先課題を掲げた花川区政も満 15 年を過ぎ、平成 31 年度の予算編成は、特別な思いで取り組まれたと思っております。

特にこれまで、予算要望や本会議での質問等で公明党が求めてまいりました、水害・土砂災害への対策、公園内への防犯カメラの設置、指定喫煙場所等の環境改善、在宅療養推進体制の強化、障害児支援の充実、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のないサポート、総合的な子どもの貧困対策の推進、学童クラブ・保育園の定員拡大、子どもの使用済み紙オムツ持ち帰りの廃止、学校における働き方改革の推進、検定料補助、小中学校体育館への空調機整備などが計上されており高く評価したいと思います。

北区にとってコミュニティバスの新規路線導入、魅力ある公園の整備、赤羽・王子・十条の駅周辺まちづくり、庁舎問題、多文化共生社会への取組の対応が今後も課題となり、そのための施策の推進へ財源確保が大きな命題となっております。公明党として要望しましたが、マイナンバーカード化を進めることも必要であります。

今回の予算委員会で申しあげました以下の課題、要望につきましては、実現に向けご努力を求めたいと思います。

- ①赤羽東口の夜間の客引きへの対応を
- ②北とびあドームホールの活用を
- ③飼い主のいない猫の保護を

- ④民泊の営業内容のチェックで法令遵守の営業を
- ⑤東京都受動喫煙防止条例施行に向けて実効性のある取り組みを
- ⑥古紙の資源回収を古紙価格に左右されない持続可能な制度へ
- ⑦新設される赤羽駅周辺の自転車駐車を買い物が利用出来るように
- ⑧荒川バーベキュー広場をもっと使いやすく
- ⑨公共施設をキャッシュレス払いシステムへすべき
- ⑩インフルエンザ子ども接種の補助

以上改めて要望し、平成 31 年度北区一般会計予算案並びに 4 特別会計予算案に賛成いたします。

以上で討論を終わります。